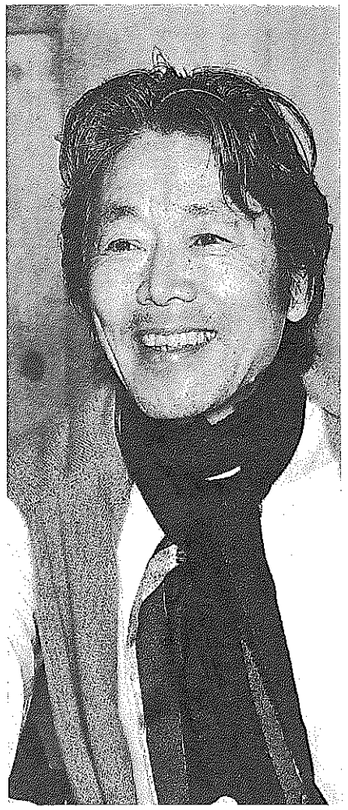
「ザ・タイガース」元ドラマー

瞳みのるさん 初舞台

芸能界離れ40年 自ら原作

音楽はつながっている



撮影・後藤淳

＊脚本／岡本螢、演出／伊東由美子。2部構成。1部は演劇、2部は、瞳さんが中国の詩人たちの人間性に迫る講演。8日＝東京・日本青年館、11日＝京都・シルクホール。☎03（6427）3919

人気バンド「ザ・タイガース」解散から42年。「ピー」の愛称で親しまれた元ドラマー、瞳みのるさんが8日、初舞台を踏みます。40年近く芸能界から遠ざかっていたなか、66歳の挑戦です。

大塚武治記者

都内の稽古場。演出家の手拍子でステップを踏む瞳さん。息が切れます。

「（元メンバーで俳優の）岸部一徳は、いつもこんなに大変なんですね。感心します（笑い）」

出演するのは、自らが原作の「OPEN YOUR EYES～あなたの瞳に輝きを～虚実の夢」。「伊勢物語」を基に、京劇や日本舞踊を折り込んだ幻想的な演劇です。

舞台は、1960年代の京都。進路に悩む青年（瞳）は、不思議な鳥に誘われ、平安時代に迷い込みます。出会ったのは、中国の天女に恋する日本の男性歌人。言葉を超えて恋心を伝える姿を見た青年は、歌で思いを伝えるバンド結成を考え―。

「伝えたいのは、音楽が、時代や国を超えてつながっているということ。みなさんにどう感じてもらえますか」

◇

67年、京都でバンド活動をしていた5人が、ザ・タイガースとしてデビューしました。ベトナム反戦運動が高まったころ。でも所属事務所は、メンバーの意志とは別に、「売れるアイドル」を強いてきました。

「僕らは会社の〝部品〟でした。人を喜ばせ、自分も喜ぶもののはずのエンターテインメントが、仲間と分断され、苦しいだけのものになりました。もう、やめるしかないと思いました」

71年、解散。瞳さんは大学と大学院で中国文学を専攻し、高校教師になりました。取材も仲間と会うことも拒みました。

転機は2008年秋、「会社の回し者」と思っていた元マネジャーの来訪でした。過去を悔い、元メンバーを訪ね歩いた彼は、「仲の良いグループを台無しにした」と謝罪。こうも教えてくれました。

「沢田（研二）は、君の行きつけの居酒屋に通っているんだ。『偶然』の再会なら、君も拒否しないだろうとね」

「みんな同じ思いだったのかと思いました。これで応えなきゃ、人間じゃないなと」

10年には、元メンバー2人と沢田さんのコンサートツアーに加わり、全国38カ所を回りました。

「沢田を引き立てたい」と、2年間ドラムを練習しての参加でした。

「みんな、あのころと変わりません。音楽に真剣で、ぶつかり合って、それが初々しくて。でも昔と違って、自分たちの力で音楽をしているという実感がありますね」

今年末には、タイガース再結成の予定。瞳さん個人は、中国公演も望んでいます。尖閣問題での軍事的強硬論を憂い、「民衆レベルの文化交流で、少しでも溝が埋まれば」と。両国で歌や漢詩の紹介に取り組んでいます。

「かまぼこの板のように底で（思いが）みんなつながっている。そのことを伝えたいですね」